

第695回

日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

※講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

日 時: 2024年1月13日(土)午後2時00分

来場開催会場: アットビジネスセンター八重洲 501 号室

ライブ配信 URL:

https://nihon-u-ac-jp.zoom.us/j/84979924395?pwd=

ZXo1a3FrN1h6RjVlN2E1QThmblhxQT09

ミーティング ID:849 7992 4395 パスコード:946523

参加方法	参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備考	
来場参加	1,000円	小児科領域講習1単位(iii貼付用) 学術集会参加単位(iv-B 貼付用)	*単位を取得するためには教育講演全て の聴講が必要(60分)	
WEB参加	無料	単位配布のご用意はございません。	*WEBにてご視聴いただく場合、聴講後に視聴者ログ、視聴時間などの情報 共有をいただきますことをご了解お願いいたします。	



【会場アクセス】

- IR 東京駅(八重洲口)より徒歩約10分
- ■日比谷線 八丁堀駅より徒歩2分

※日比谷線八丁堀駅(A5出口)

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観:ガラスカーテンウォール

※看板表記: ABC conference room

【東京都地方会】

会 長:森岡一朗(日本大学医学部小児科主任教授)

主幹校:日本大学医学部小児科 担当:岡橋 彩

連絡先: jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP: https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/



第695回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1題6分、指定発言5分、追加討論3分以内厳守のこと) 《プログラム係 日本医科大学 渡邉 誠》

一般演題 (1) 14:00 - 14:35 座長 田辺 雄次郎 (日本医科大学小児科)

- 1) 食道異物との鑑別が困難であった動脈管石灰化の1例
- 〇有井 滉子¹⁾、薮内 彩乃²⁾、窪田 義己²⁾、岸田 さなえ²⁾、前田 直則²⁾、土岐 真智子²⁾、 鈴木 絵理²⁾、山澤 一樹²⁾、藤田 尚代²⁾、三春 晶嗣²⁾

(1) 国立病院機構東京医療センター研修センター、2) 同 小児科)

2歳女児。初発の熱性けいれんで当院受診した。けいれん直前に3 cmのおもちゃを持って咳込んでいたため異物誤飲が疑われた。胸部CT検査で気管分岐部レベルに約10 mmの線状高吸収域を認め食道内異物が疑われ、除去目的に高次医療機関へ転院した。再読影で動脈管石灰化と診断され、食道通過障害もなく経過観察された。胸部CT検査で気管分岐レベルの食道近傍の石灰化を認めた場合は動脈管石灰化を鑑別に挙げる必要がある。

○指定発言 宮嵜 治(国立成育医療研究センター放射線診断科)

2) 皮疹と前縦隔腫瘤から診断した Langerhans 細胞組織球症の 1 歳女児例

○坪谷 ひなの^{1) 2)}、谷口 明徳 ¹⁾、藤原 恵 ¹⁾、石橋 武士 ¹⁾、富田 理 ¹⁾、藤村 純也 ¹⁾、 鈴木 恭子 ²⁾、大友 義之 ²⁾、清水 俊明 ¹⁾

(1) 順天堂大学小児科、2) 同 練馬病院小児科)

1歳女児。診断2か月前から有熱時に紅色の粟粒大皮疹が複数体幹中心に出現し、解熱とともに自然消退するエピソードを繰り返していた。症状が遷延し、経口摂取不良が進行した。画像検査で前縦隔に腫瘤を認め、皮膚生検でLangerhans 細胞組織球症(LCH)と診断した。化学療法を開始し皮疹は速やかに消退し、腫瘤も縮小した。特徴的な皮疹および前縦隔腫瘤から LCH を想起することが重要である。

3) シルクタンパク質含有マドレーヌによる食物アレルギーの1例

○藤井 雅行、大崎 侑佳、磯部 あいこ、冠城 祥子、明石 真幸、鳴海 覚志

(慶應義塾大学小児科)

7歳女児。シルクタンパク質含有マドレーヌを摂取し咽頭違和感、嘔気、呼吸困難を認めた。プリック検査でシルクタンパク質陽性のため、シルクによる食物アレルギーと診断した。患児は加水分解シルク含有シャンプーを日常的に使用しており、経皮感作を疑った。シルクタンパク質による食物アレルギーの報告は稀だが、様々な健康効果を有する食材として注目されており、今後食物アレルギーの原因として注意が必要である。

一般演題(2) 14:35 - 15:05 座長 柏木 保代(東京医科大学小児科)

- 4) 無呼吸発作を合併したヒトパレコウイルス感染症の早期乳児
- ○雨宮 捷悟、上野 航、小國 雅也、平沢 光明、村田 陽、白根 正一郎、斎藤 雄弥、大澤 由記子、 小保内 俊雅

(東京都立多摩北部医療センター小児科)

1か月乳児。発熱の精査加療目的に入院し PCR 検査で SARS-CoV-2が陽性となったが、入院後全身のチアノーゼおよび無呼吸が出現した。髄膜炎を疑い FilmArray 髄膜炎・脳炎パネルを実施しヒトパレコウイルス(hPeV)が陽性であり無呼吸発作の原因として hPeV 感染症と診断した。hPeV 感染症は乳児において重症化することがある。無呼吸発作を呈する乳児において、hPeV 感染症は重要な鑑別となる。

5) 全身に多数の潰瘍病変を認めた BCG 接種後の壊疽性丘疹性結核疹の 1 例

〇深田 英香¹⁾、西山 洋平²⁾、宮本 智史²⁾、星野 顕宏²⁾、神谷 尚宏²⁾、磯田 健志²⁾、高木 正稔²⁾、 竹下 八菜³⁾、金兼 弘和²⁾、森尾 友宏²⁾

(1) 東京医科歯科大学 総合教育研修センター、2) 同 小児科、3) 同 皮膚科) 8 か月乳児。BCG ワクチンを接種した 2 か月後に、接種部位の潰瘍が出現した。その他に全身に最大で直径 1 cmの紅斑が複数出現し、後に潰瘍へ変化した。潰瘍部からの抗酸菌培養および PCR 検査は陰性で、皮膚生検によって壊疽性丘疹性結核疹と診断した。BCG 接種後に生じ得る結核疹を周知するとともに、BCG 菌に対して易感染症をきたす原発性免疫不全症との鑑別も含めて考察する。

6) 歯性上顎洞炎を契機に切歯管嚢胞を診断した1例

○渡真利 紫音¹⁾²⁾、二木 良平²⁾、中尾 寬²⁾、小森園 梨奈²⁾、五十川 伸崇³⁾、山本 修子⁴⁾、 窪田 満²⁾、石黒 精¹⁾

(1) 国立成育医療研究センター 教育研修センター、2) 同 総合診療部、3) 同 歯科、4) 同 耳鼻咽喉科) 11 歳女児。左上歯痛、頬部痛、発熱が遷延し、第4病日に前医に入院した。左鼻腔底膿瘍と切歯管嚢胞感染の診断で抗菌薬投与が開始されたが、症状は増悪傾向で、第6病日に当院に転院した。精査の結果、左上中切歯齲蝕部から切歯管嚢胞と左上顎洞への感染拡大による症状と考えられた。抗菌薬治療の継続で症状改善を認め、第12病日に退院した。齲歯から切歯管嚢胞感染、上顎洞炎をきたした症例は稀であり、考察も交えて報告する。

一般演題(3) 15:05 — 15:25 座長 岡田 創(日本医科大学小児科)

7) 頭部外傷後に一過性全健忘を呈した小児1例

○関谷 健¹¹、吉田 百合香²、唐渡 諒²、金澤 建²、阿部 祥英²

(1) 昭和大学医学部小児科学講座、2) 同 江東豊洲病院こどもセンター)

13歳男子。ラグビーの試合中に頭部を打撲し、約20秒間の意識消失を認めたため、来院した。意識清明だったが、「今日何曜日だっけ」と同じ質問を繰り返した。質問の反復は受傷後24時間以内に改善したが、受傷直前の記憶喪失は残存した。一過性全健忘は突然の前向性健忘と逆行性健忘を呈し、同じ質問を繰り返すことが特徴的である。片頭痛の既往のある中高年に多く、頭部外傷が誘因の小児例は少ないため報告する。

8) 新生児スクリーニングを契機に発症前に治療導入できた脊髄性筋萎縮症の1例

〇田中 莉枝¹⁾、吉川 遥菜¹⁾、小川 恵梨¹⁾、阿部 清美²⁾、武内 俊樹¹⁾、鳴海 覚志¹⁾

(1) 慶應義塾大学医学部小児科、2) 東京都済生会中央病院小児科)

2か月乳児。日齢4の拡大新生児スクリーニング検査(拡大 NBS)で脊髄性筋萎縮症が陽性であった。日齢16に MLPA 法による遺伝学的検査で確定診断し日齢27から発症前治療を開始した。東京都でも2023年4月から希望者への拡大 NBSが開始された。今後の拡大 NBSの全出生児に対する公費負担実施が検討される中、迅速な診断・治療のための体制整備、産科と小児科の連携が重要である。

* * 休 憩 15:25-15:35 * *

感染症だより 15:35 - 15:50 (講演:15分)

講師 高梨 さやか (国立感染症研究所感染症疫学センター)

共催セミナー 15:50 - 16:30 (講演:40分)

「アトピー性皮膚炎への早期介入とアレルギーマーチ対策」

座長 森岡 一朗(日本大学医学部小児科) **講師 山本 貴和子**(国立成育医療研究センター アレルギーセンター)

アレルギーマーチの入り口となるアトピー性皮膚炎への介入はとても重要です。この度、アトピー性皮膚炎に対する早期介入で食物アレルギー発症を抑制できることを PACI Study で実証しました。アレルギーマーチ対策について考える機会にしたいと思います。また、実臨床で小児のアトピー性皮膚炎の治療を成功に導くにはどうしたらよいでしょうか。モイゼルト軟膏を活用した抗炎症外用薬の使い分けも考えてみたいと思います。

共催:大塚製薬株式会社

* * 休 憩 16:30-16:40 * *

教育講演 16:40 - 17:45 (講演:60分+質疑応答:5分) 小児科領域講習1単位

「新生児・乳児の頭蓋変形ー頭蓋変形外来の現状とこれからー」

座長 大久保 隆志(西巣鴨こどもクリニック) 講師 長野 伸彦(日本大学医学部小児科)

欧米では新生児、乳児のうつ伏せ寝が推奨されることにより、乳児の突然死が急増した。それにより、1992年より乳児は仰向け寝が推奨され、乳児の突然死は半減した。その一方で、仰向け寝のため、位置的頭蓋変形症の乳児は急増し、近年頭の形を気にする保護者が増加した。当院小児科では、そのニーズに対応するため、2020年7月から脳神経外科と連携し頭蓋変形外来を開始した。本講演では、位置的頭蓋変形症と頭蓋骨縫合早期癒合症との違いを概説するとともに、これまでに報告した研究成果を紹介する。

◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ

【日本小児科学会東京都地方会幹事選挙について】

日本小児科学会東京都地方会幹事選挙において、次期幹事立候補数が99名であったため、幹事選挙 施行細則第5条により補欠選挙は行わず、同第9条により全員当選となりました。次期幹事(2024. 2025年度)一覧及び詳細は地方会ホームページをお知らせ欄よりご確認ください。

なお、現幹事による幹事会を 2024 年 2 月 10 日講話会後にハイブリッド形式で開催予定です。

【年会費オンライン決済システム拡充に関して】

2023年10月2日(月)より現在のクレジットカード決済以外に新たに下記オンライン決済が可能と なりました。

- コンビニ決済(可能なコンビニ:ファミリーマート/ローソン/ミニストップ/ セイコーマート/デイリーヤマザキ)
- 銀行振込

2023年度年会費未納の方は2024年3月末日までに【会員マイページ】より納入手続きいただきます ようお願いいたします。

- 3年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。
- *会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きお願いいたします。

【年会費免除申請について】

学部学生(大学院生は除く)および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。 学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証(写)と年会費免除申請書(東京都地方会ホームペー ジよりダウンロード可)を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにて ご確認お願いいたします。

ご不明な点がございましたら事務局までご連絡をお願いいたします。

【次回以降開催予定】 2024 年 2 月 10 日(土) 来場(アットビジネスセンター八重洲)+ ライブ配信 2024年3月9日(土) 来場(アットビジネスセンター八重洲)+ライブ配信 2024年6月8日(土) 来場 (アットビジネスセンター八重洲)

*4,5,8,11月は休会となります。

※講話会中は会場 03-6627-2151 へご連絡ください。

連絡 🖂: jpstokyo-office@umin.ac.jp

* 2024 年度より現地開催のみとなります。

【担当医局】日本大学医学部小児科

【東京都地方会 HP】

https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/

演題募集中!

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

◆ 年間行事情報 ◆

小児診療初期対応(JPLS)のご案内

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応(Japan Pediatric Life Support: JPLS)を年間 4 回開催します。

取得単位:小児科専門医(新制度)更新単位 iii小児科領域講習3単位

開催日程	会 場	申込開始時期
2023年11月25日(土)	日本大学	満員御礼
2023年11月26日(日)	日本大学	満員御礼
2024年2月3日(土)	国立成育医療研究センター	満員御礼
2024年2月4日(日)	国立成育医療研究センター	満員御礼

申し込み:日本小児科学会 HP

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221